



環境会計

ムラタでは事業活動における環境保全のためのコストと、その結果生じた環境への効果を把握・分析し、環境負荷低減を目指しています。

環境コストマネジメント

海外にも展開を計画

ムラタは2003年に環境会計の考え方を導入した環境コストマネジメントの仕組みを構築しました。これによって、国内グループにおいて、環境活動にどの程度の費用を要し、どれだけの効果が得られたのかを把握し、さらに効果的な環境負荷低減活動へとつなげています。

2007年度は、環境コストの算出方法を見直しました。拠点ごとに担当者が実績をシステムに入力・集計していた従来方式を改め、本社の管理会計システムからダイレクトに関連情報を取り込む方式とし、精度の向上と作業の簡素化を図りました。

算出方法の改善にとまじり、海外生産拠点への環境コストマネジメントの展開は、2009年度から運用開始とする計画です。

2007年度の結果と分析

公害防止への投資の増額

2007年度の環境活動費用は約35億円、投資額は約28億円でした。

温暖化防止に関しては、コージェネレーションシステムのような大型投資をとまじり施策は一段落したものの、野洲事業所や出雲村田製作所などで、排水処理施設の更新・増設やメンテナンスが集中したこともあり、公害防止に関する投資額が増加しています。

また、ムラタの特徴でもある、工場緑化に関する投資によって、管理活動に分類される投資額も多くなっています。2007年度は、出雲村田製作所と富山村田製作所において大型の工場緑化投資を実施しました。

出雲村田製作所の排水処理施設



野洲事業所の排水処理施設

▼ 環境会計

分類		費用(百万円)		投資額(百万円)	
		2006年度	2007年度	2006年度	2007年度
事業所エリア内コスト	公害防止	470	338	893	1,807
	地球環境保全	319	303	512	534
	資源循環	1,511	1,405	109	166
	小計	2,300	2,047	1,514	2,507
上下流環境保全コスト		120	150	0	0
管理活動コスト		472	631	97	202
社会活動コスト		200	85	1	0
研究開発コスト		930	598	96	108
環境損傷コスト		0	0	0	0
合計		4,022	3,509	1,708	2,817



データの算出方法

- ① 集計対象は村田製作所の各事業所および国内生産拠点(17社)です。
- ② 2007年4月から2008年3月までの12ヵ月間を集計対象期間としています。
- ③ 費用には人件費、減価償却費を含んでいます。
- ④ 環境保全コストとそれ以外のコストが結合した複合コストについては按分集計を行っています。